

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1172800607		
法人名	社会福祉法人 人間福祉会		
事業所名	扇楊苑グループホーム		
所在地	埼玉県入間市大字中神 853-1		
自己評価作成日	令和4年12月2日	評価結果市町村受理日	令和5年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

扇楊苑グループホームは認知症の方々の安心した生活を過ごせるよう本人のニーズ、希望が出来る限り叶うよう支援、提供していきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・「共に歩み、共に生きる」の理念のもと、「入居者のやりたいことをかなえる」を、管理者、職員が一体となって支援がなれている。コロナ禍で外出が減る折、事業所内での支援の充実に取り組み、秋祭りやボランティアによる音楽演奏会の実施や入居者の希望に応えキッチンカーを来所させるなどの取り組みも行われている。 ・運営推進会議については、コロナ禍で対面での開催が困難となる中、事業所や入居者の状況を書面にまとめ、市担当者、民生委員、地区ごとの老人会会長や家族代表の方々に書面での取り組みの報告を行い、意見や提案などは少ないが、入居者や事業所の現状の理解に繋がっている。 ・目標達成計画の達成状況については、前年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、定期訓練では、災害対策における職員の役割分担の整備などに取り組みられ、訓練や毎月の会議などで職員の防災意識の向上に努められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	毎日の生活の中で、ケアの方向性が統一されるようスタッフ間で話し合いを行っている。 会議に関してはコロナ禍でほとんど行っていない。	「共に歩み、共に生きる」を基本に、入居者に「思いやりの気持ちとその人らしい生活が送れるよう支援をする」などを盛り込み、事業所全体で実践されている。入居者の自由で安心した生活、そして地域や家族との協力も理念に謳われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の為ほとんど交流なし	地域のサークルや老人会の集まりなどにはこれまででは出かけられ、地域とのつきあいは頻回に行われていたが、現在はコロナ禍で近隣への散歩や挨拶などに努められるほか、できる範囲での交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為ほとんど交流なし		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、書面でのみ開催しているため、意見交換などは行っていない。	市担当者、民生委員、地区ごとの老人会会長や家族代表の方々に書面で取り組みの報告を運営推進会議に代えて行われている。意見や提案などは少ないが、入居者や事業所の現状の理解に繋がられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターなどとは情報交換などは行っている。わからないことに関しては市の担当者などに確認をとっている。	入居者への対応方法や病院情報の問い合わせなどは地域包括支援センターの協力が得られ、コロナ禍の情報、ワクチン接種や備品の配付などもスムーズに行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月事故委員会の開催。 身体拘束・事故・虐待に関して会議を行っている。 施錠に関しては日中は玄関や居室のドアは開放している。	身体拘束・事後防止委員会を定期的に開催し日常の事例から防止策の検討が行われている。特に言葉使いなどには十分な注意を払い、丁寧な話しかけが信頼関係を作ることに繋がった事例も見受けられる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の事故委員会で虐待の有無の確認、不適切ケアなどが起きていないか、注意を払っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を苑外の方でも見て頂けるようロビーへ設置している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は、ご家族に説明し同意の署名・捺印を頂いている。 また契約内容の改定時にはお手紙でお知らせの書類送付を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時などは出来るだけ職員も少し時間を作り交流を設けている。その際、希望などがあれば反映できるよう取り組んでいる	「外に出たい」、「〇〇が食べたい」などの入居者の要望にはキッチンカーを呼んだり、弁当の宅配をするなどして応えられている。家族とは窓越し面会やオンラインで職員も含めて話をお聴きし、細かいことでも話し合われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の代表者会議を実施し話し合いの場を設けている。また、年二回の職員の面談を実施している。	職員同士は業務をしながら話し合い、その日、その時に合わせたアイデアも出されている。職員は常に様々な提案と工夫を行い、ボランティアにより演奏会が開催されるなどの取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年の目標設定と半年に1度人事考課面接を実施し、職員の勤務状況や意見などを聴く機会を設け意欲向上に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時オリエンテーションをはじめ、外部講師を呼び、法人内にて研修の機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦のため数回行ったが、ほとんど実施していない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、ご本人の状態確認も踏まえ、ご本人、ご家族とお会いし生活歴などの情報収集を行っている。介護を行う上で受容、共感を基本とし関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談、見学、事前調査、契約とご家族様とお会いする機会も多い為、出来るだけご家族様の意向がくみ取れるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時にご家族様と面談させていただき、必要に応じて、特養や介護支援センターと連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事も一緒に常に寄り添い信頼関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の連絡、苑だより、面会が出来ない時期はオンラインを活用し、ご本人と画面越しでも会うことができるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦のため、外出はほとんどしていない。	プロジェクターを使用して入居者の生まれ故郷の景色を見ていただいたり、花火大会の様子なども楽しんでいただくなど馴染みの支援継続に取り組まれている。オンラインや窓越し面会、友人からの電話の取次ぎなど様々な工夫が施されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が円滑にコミュニケーションが図れるよう、座席の検討、職員の仲介などで生活環境作りを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、介護が継続する場合には相談・支援ができることをお伝えしている。また退去後も気軽に遊びに来ていただけるよう、関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から生活にあたって意向は、日々の生活の中で情報を得よう心掛けている。	日常の会話から、入居者が自分の人生について話をされることもあり、それらからその人の人となりを知り、思いや意向の把握に繋がられている。また、食べ物の話から会話が広がったケースもあり、知りえた情報は職員間で共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との事前面談時に、ご本人・ご家族様より情報の収集に努めている。また入所後も会話の中からの情報をもとに家族面会時などに状況報告し経過の報告をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子、バイタルサイン、食事状況などを記録、把握し職員間での共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なアセスメント・カンファレンスを行い、課題について話し合い計画作成を行っている。	「ニーズや希望が叶うような支援プラン」を基本に、サービス内容などは細かく、かつ具体的な表現がなされている。職員、家族の意見や要望も十分反映され、現場にプランを置き、日常の支援に活かされるよう取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録へ日々の様子や変化を記録し情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望があった際は、コロナ禍でも対応できるものに関しては出来る限り取り組めるよう行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は行えていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人の希望で個別の往診、通院ができるよう取り組んでいる	かかりつけ医への受診は通常は家族同行で、家族に必要な情報を伝えたり、状況に応じて職員も同行するなどの支援がなされている。日常的には24時間の対応体制が備えられ、入居者の健康管理には家族も安心との評価を得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	委託医と相談しながら日々の入居者の健康管理、状況報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医を通じ病院との協力体制をとっている。 また、入院時は医療相談員と連携を図り、情報の共有を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の希望や急変時の対応に関しご家族へ確認をとっている。 また、重度化してきた場合は家族・医師と十分に話し合い、今後の方向性の検討・決定をしている。	入居者の状態が変化するごとに「今後どうされるのか」、「どういう最期を希望されるのか」などの話し合いが随時行われている。看取りも実施され、家族の希望にも十分な配慮をするなど、家族からも喜ばれた事例も見られる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生などの急変時対応の研修を行っている。またマニュアル作成し職員が随時対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。	法人全体での災害対策、協力体制が取られ、発生時の避難方法や避難経路なども確認されている。ハザードマップの点検も実施され、また、近隣の住民を受け入れる体制も整い、食料や水の備蓄にも取り組まれている。	災害対策は十分行われています。災害はどんな時に発生するか予測できないことから、訓練を通して常にその時の課題を見つけ、職員個々の防災意識の向上に繋がられることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを考慮した声掛けや、環境作りを行っている。	トイレ介助への声掛け、排泄後の処理などで特に入居者のプライバシーとプライドに対応するよう努められている。その人らしさを尊重し、朝の着替えや整容などもそれぞれのペースで行っていただいている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴など出来るだけご本人の意思を尊重し、対応できるよう環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の日課はなく、その時の様子・希望をみながら生活していただいている。行事や各活動への参加は自由であり、起床や消灯時間も設定はしていない。入居者の様子に応じ休憩時間もずらすなどの取り組みを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の方々へ、その日の気分によって選んで頂けるよう支援している。また化粧、ネイル、髪染めなども希望があれば対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳、片付けなど入居者の方と一緒にやっている。またおやつ作りも入居者の嗜好を考慮しながら一緒に作るという事もやっている。	日常の食事はご飯と味噌汁以外は厨房から提供されているが、入居者の希望に合わせて事業所で作ることもあり、ラーメン大会なども企画されている。入居者の嗜好や食事形態などにも気を配り、安心して食事を楽しんでいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりメニューを作成し提供している。一日の摂取量も記録、また食欲低下の方には個別に食べやすい物などの提供もおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じ、声掛け、ブラッシングなどの介助を行っている。必要に応じ義歯の管理や定期的な歯科往診を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン・能力に応じ、必要な排泄用具を揃えている。また排泄記録を行い、排泄リズムの把握に努めている。	入居者個々のパターンを把握し、時間なども考慮しながらトイレ誘導に心がけられている。入院してオムツ使用の入居者でも立位がとれ、自力で歩けるならオムツを止めた事例も伺われ、自立への取り組みが行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態の把握、排便のリズムを把握すると共に、運動や乳製品などの食品摂取し、便秘予防。また医師の判断により、下剤服用もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間、回数をできる限り本人の希望・状況に合わせて対応している。また入浴剤も用意しご本人の希望に合わせて使用している。	出来るだけ個々の習慣に配慮し、毎日入浴されたり、夕方入るなどの希望には応えられている。また、入居者のプライドや羞恥心にも十分気を配り、浴室の外での見守りや同性介助の対応も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝の時間を決めず、個々の生活パターンや、その日の気分、体調に応じ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書をファイリングし常時確認できるようにしている。内服によって状態変化見られた際はすぐに往診医と連絡をとれる体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活していく中で、その人に合った役割を持っていただき、生活の中で必要とされている、と感じて頂けるよう支援している。また行事なども定期的に実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、地域交流できるような場所へはほとんど行っていないが、近隣散歩、ドライブは実施。また日中はいつでも苑庭へ出られるよう施設はせず対応している。	季節感や生活感を感じていただけるよう近くの牧場や栗林まで散歩に出かけるなどの支援が行われている。コロナ禍で遠出は難しいため、車窓から花見をしたり、日光浴や外気浴を頻回に行うよう努められている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要時は預り金から個々の希望のものを購入している。自身でお金を持ちたい方は希望に応じてご家族と話し自身で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所内の電話はいつでも使用できるようにしている。また電話があれば取り次いでいる。施設郵便ポストも使用可能。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	併設型の施設の為、施設風の建物であるが、浴室、トイレ、キッチンなど一般家庭と同じものになっている。またリビングなども季節感がかんじられる装飾を取り入れている。	入居者の安全を考慮したゆったり寛げる共用空間が作られ、車いすの入居者の動きにも対応されている。日常の清掃は職員と入居者が一緒に行い、壁には入居者が書いた絵が飾られ、ウッドデッキに出て日光浴やお茶を楽しむなどの光景も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり過ごせるようソファを置き、少し離れた場所へも個々の居場所を確保、入居者同士の相性に配慮した工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り使い慣れたものを持ってきていただき、今までと近い環境で生活できるようにしている。状況調査時に確認できる場所は確認しご本人の使い慣れたものを待っていただいている。	居室には個々にトイレが設置され、安心して過ごされるようプライバシーへの配慮もなされている。自分の作品のほか位牌やラジオ、テーブルや椅子、携帯電話などが持ち込まれ、その人らしい生活が送られるよう支援をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング・居室など手すりを設置し、安全に歩行ができるよう配慮している。居室やトイレがわからない方へは目印をつけるなど工夫している。また補助具などの使用も随時検討している。		

(別紙4(2))

事業所名: 扇揚苑グループホーム

目標達成計画

作成日: 令和 5年 3月 14日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時、各勤務ごとの役割分担が決められていない。	各シフトごとの役割が全職員に周知徹底できるようにする。	定期的な訓練時、会議でも話し、皆の意識に刷り込んでいく。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。